

2024年度の省エネルギー対策について

慶應義塾全体のカーボンニュートラル化の推進と、エネルギー（電気・ガス）コストの高騰に対応するため、2023年度に引き続き省エネ法で定められた目標値（エネルギー消費原単位を年平均で1%以上低減）より高い省エネルギー目標を設定し、既存施設の高効率化や再生可能エネルギー導入などハード対策の積極的な実施と、電力使用機器の使用抑制などソフト対策をより徹底することで、その達成を目指す。

1 省エネルギー目標

「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を2023年度比で2%以上低減する」

※エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガスなど）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

2 対象期間 2024年度中

3 具体的運用例

基本方針は、昨年度までの対策を概ね踏襲する。

なお、以下の運用については、教育・研究・医療環境を損なうことのないよう配慮しながら実施することとする。

(1) 施設改修などハード対策

ア 高効率機器採用について

- ・照明設備のLED化を促進する。（全塾で2025年度までの完了を目指す）
- ・空調設備を高効率設備に更新する。
- ・熱源機器（CGS含む）の高効率化改修を検討する。
- ・建物の外皮性能の向上を検討する。

イ 再生可能エネルギーの導入について

- ・再生可能エネルギー導入ポテンシャル検討結果に基づき、再生可能エネルギーの導入を進める。

ウ エネルギーの管理・分析について

- ・既存エネルギーマネジメントシステムを活用し、建物ごとなどきめ細かなエネルギー管理および分析を行い既存設備の運用改善、省エネ化改修の検討を進める。
- ・既存システムを改修・増強することで、ガスも含むエネルギーの見える化システムを構築する。

(2) 運用などソフト対策

ア 空調・換気について

- ・使用していない教室などの空調停止および適切な温度設定を行う。
（設定温度については空調運用対象期間前に別途案内）
- ・利用申請のない教室・会議室の空調機稼働停止を徹底する。
- ・教室などの環境をモニタリングし、過度な換気を抑制することでエネルギーロスの少ない換気を徹底する。
- ・外気冷房を積極的に利用する。

イ 照明について

- ・使用していない教室などの消灯、および安全性と必要照度を確保した上で共用部の減灯・消灯を適切に行う。
- ・利用申請のない教室・会議室は照明の消灯を徹底する。
- ・係員による省エネパトロールを行い、予約されていない教室の消灯をする。

ウ エレベーターの稼働について

- ・複数台設置されている場所については一部を停止する。

エ 電気機器・OA機器などについて

- ・電気温水器・暖房便座などさまざまな電気機器類について必要最低限の稼働とする。また、持込電気機器類の使用は禁止とする。
- ・待機電力削減のため、各自が使用しているパソコンなど、離席時など未使用時に電源を切る。

オ 啓発活動について

- ・公式HP、義塾イントラサイト、エネルギーの見える化システムなどにおいて各施設のエネルギー使用量やCO₂排出量の推移を開示することで、学生・教職員が各々の努力や協力の効果を実感し、省エネ・環境問題への意識・関心を高め、省エネ活動に対して自発的な行動変容を促す。

カ クールビズ・ウォームビズについて

- ・教職員に対して、クールビズおよびウォームビズを奨励する。
対象期間は、クールビズ 5月1日～10月31日、ウォームビズ 12月1日～3月31日